



第 1 1 号 ぐるーぷ「倶楽志」in 飯能

—すむ、きる、たべる文化交流—

<http://groupkurashi.seesaa.net>

代表 相田通子
〒357-0045
飯能市笠縫409-7
TEL/FAX 042-974-3538
sugita22@mve.biglobe.ne.jp

総会と日帰りバスツアー:

～埼玉の偉人：塙保己一・渋沢栄一
の実家を訪ねて～

平成 25 年 4 月 28 日 (日)、総会および日帰りバスツアーを実施しました。食文化にこだわり本庄児玉のヤマキみそ・醤油蔵見学 (明治 35 年創業)・豆腐作り体験そして飯能の人物史を中心にその関連の地域や人物を掘り起こしました。特に渋沢栄一の養子になった渋沢平九郎は飯能戦争とも深くかかわり飯能の顔振り峠にさしかかった峠の茶屋主人との交わりはあまりにも有名です。

<ツアーの経路>

飯能駅～金鑽神社
～塙保己一記念館～
ヤマキ醤油～渋沢栄
一記念館 (深谷市)・
栄一生家・尾高惇忠生
家 (尾高新五郎の末弟
で渋沢栄一の養子と
なり渋沢姓を名乗っ
た渋沢平九郎 (振武軍
の参謀)



ヤマキ醤油工場の樽



渋沢栄一の生家の前で

今回も元郷土館の館長の浅見徳男氏にご同行
願ひ、随所で飯能との関わり (特に飯能戦争、渋
沢栄一、平九郎のことなど) お伺いしながら充実
した一日を過ごしました。



元郷土館館長
浅見徳男氏

渋沢栄一氏 (1840 年) 現在の深谷市血洗島の
農家に生まれる。いとこの尾高惇忠から論語をは
じめ尊王攘夷思想の影響を受け、その後一橋家お
よび幕府に仕え慶応 3 年第 15 代将軍徳川慶喜
の名代徳川昭武に随行して渡欧し、ヨーロッパの
進んだ思想・文化社会を見て多大な影響を受けま
した。



渋沢栄一 (1840-1931)

<Wiki ペディアより>

権田直助・井上頼圀を支えた飯能びと
／本橋良浩

飯能の女傑と謳われた田中かく子については、
ぐるーぷ倶楽志 in 飯能でも「明治時代の女性の
暮らし」特集で取り上げてきました。浅見徳男氏
や尾崎泰弘氏のご協力によって飯能が生んだ明
治の開明的女性・田中かく子を再考してきました。
その一つの成果として浅見徳男著『明治の女丈
夫・田中かく子の生涯』として実を結び、ぐるー

ぶ倶楽志 in 飯能会員やネット注文により好評を得ました。さらに今年新たに浅見徳男氏は『荻野吟子と田中かく子』の著作を進めており、その中で明治初期に田中かく子が深く関わった姉小路良子・跡見花蹊・内藤満須・荻野吟子・加藤若世などの女性同士の教育に対する熱気と才覚を若き田中かく子は全身で吸収し教育と事業の田中一誠堂を立ち上げる友情物語が展開される。浅見徳男氏は飯能ばかりか埼玉、東京、甲府などの多くの人に読んでもらいと願っている。乞うご期待！なお田中かくは安政 6 年から昭和 28 年までの生涯を送った人ですが、「かく」の表記は明治以降自ら角子や覚子とも記しているのですが浅見徳男氏にならって「かく子」に統一しました。



田中かく子

さて、しかし私は飯能の女傑田中かく子を産んだ江戸後期から明治にかけて活躍した飯能の人々、権田直助や井上頼圀を支えた多くの飯能びとのことを忘れることができません。

田中かく子の父田中忠三(旅籠「田中屋」経営)はもちろん、かく子が学んだ寺子屋・神官小能志摩、田中かく子を井上頼圀の神習舎塾に入門の紹介者である名主家小山八郎平らが深く関わっていたこと、そのほか書家で勤皇志士であった小川松園・香魚父子、名医早川舟平・精一郎父子、真

能寺の組頭堤治助・学海父子、赤沢の名主材木商浅見才次郎・広孝父子、唐竹の組頭材木商岡部三五郎・道太郎父子、秩父御嶽神社の霊神・鴨下清八、俳諧画で知られた吾野神官・朝日播磨、富士浅間神社の武本祇直など多数にのぼります。くわしくは『飯能郷土史』や『飯能人物誌』をご参照ください。

今回はこの人達の中で今まで知られていない堤治助・学海父子を私は少し紹介したい。

かつて私は平成 22 年の埼玉県人会主催の講演「埼玉の剣術」に梶田通子代表に誘われて聴聞する機会がありました。講師の大保木輝雄埼玉大学教授はエピソードの一つとして「大山(神奈川県)から飯能への参拝講には剣客が護衛にあたっていたという記録がある」というエピソードを語ってくれました。私は飯能と聞いて思わず「おう！」と隣席で聴講していたぐるーぷ倶楽志 in 飯能会員の太刀川康江さんと顔を見合わせてしまいました。

私はいつか大山の阿夫利神社へ行きたいと思っていたので興味を覚えました。最近になって(平成 24 年 12 月)、『埼玉苗字辞典』を読んでいたら堤の項に「相川大山阿夫利神社下社 嘉永四年御神燈に飯能町織物商講中・堤治助(真能寺村組頭)という一節に釘付けにされました。「あ、そうか、織物商講として飯能から大山参拝していたのか」と私は納得

しました。これまで私が堤治助の名を知っていたのは、『飯能郷土史』(昭和 19 年刊)の飯能戦争の一節に「振武軍の一隊が下道稻荷拝殿に土足で上ったとて、真能寺の硬骨漢堤治輔(同村



井上頼圀

の組頭、井上頼圀につき国学を修む)がその非礼をなじって喰って懸かった話など実に飯能人の面目を表現した痛快事であった」と記されて知っていた程度でした。興味をもってさらに調べてみると井上頼圀は堤治助の子・貞造(学海)を権田

直助名越舎に入門(慶慮三年九月)の紹介者になっている。権田直助もまた明治三年に堤治助(常海)と貞造(学海)父子を井上頼圀神習舎門人への紹介者になっている。明治四年刊行の『古医道治則略注』の権田先生講説門人筆記名として「武蔵 早川精一、堤学海」と記されている。真能寺村(現八幡町)にある広渡寺を訪ねて堤家の古い墓石から堤治助が権訓導だったことや堤学海が大坂一之宮住吉神社に祀官していたことを私は知ることができました。早川精一は名医と謳われた早川舟平の長子精一郎ですが、私はかつて(平成 21 年)の本誌ぐる一ぷ倶楽志 in 飯能第 6 号に、『明治医師人名鑑』によると明治 15 年の免状下付者に「早川精一郎 内外 大阪府 埼玉県とあると紹介しましたが、埼玉県飯能出身の早川精一郎が、なぜ大坂で受験したのか私はよくわからなかった。調べていくうちに江戸後期、関西方面にもすでに早川舟平の名は知れ渡っていたことや友人である堤学海が大坂に居たからであろうと私は推測することができました。いずれ早川舟平について詳しく書きたいと思っています。

先ほどの堤治助による阿夫利神社御神燈奉納が嘉永年間だったことに私は注目しました。毛呂山町資料集第 5 集『権田直助』の年譜「嘉永四年」の項に、「四月、大山御師平田喜大夫の檀家軒別控帳の毛呂本郷の条に「一、源定」とある。十一月、長女毛登を義士で医師の早川舟平に嫁がせる」と記され、大山御師の布教活動が盛んだったことがわかります。

『惟神道の射行者 権田直助翁』(神崎四郎著・昭和 12 年刊)の一節にも、「嘉永二年、須藤重雄の著した阿夫利神社古伝考は、平田鉄胤翁の序をのせて出版されたものであるが、この書は当時の大山御師としての代表的なものであった」とあることから飯能に阿夫利神社の御師の布教活動が広がっていたことを物語っています。

こうして私は権田直助が明治六年に阿夫利神社に祀官するまでの歴史背景を知ることができたのでした。

なお飯能には権田直助撰文による石碑が小川松園・香魚碑(能仁寺山麓)に、井上頼圀撰文は

吉田洞庵碑(刈生)と秩父御嶽神社の中腹にあります。

また最近、会員の浅見賢治氏により井上頼圀の伯父・井上栄傑による見事な襖絵や天井画が智観寺本堂に保存されていることを知りました。

(ぐる一ぷ倶楽志 in 飯能会員、都内板橋区在住本橋良浩記)

◇◇

★余談ですが、渋沢栄一翁が主唱され初代会長を務められた会一般財団法人「埼玉県人会」は今年で創立 100 周年です。そこで恐れ多いのですが、ご縁があり渋沢栄一氏をはじめ平九郎のことなど本橋氏と一緒に「埼玉県人会の歩み」投稿させていただきました。皆様のお力添えと感謝致しております。

★お正月越生の七福神をお参りした時「龍穩寺」末寺全洞院にお参りした時、渋沢平九郎が近くで自決(22 歳)したので、このお寺に葬られているとの事でした。なんというめぐりあわせでしょう。少しでも当時に戻ったような気持ちになり、不思議な気持ちでした。(梶田通子)



渋沢平九郎 <越生町 HP より>

仲秋の名月 ～うどん作りを体験～

平成 25 年 9 月 22 日、飯能市白子の民宿「川波」で、食文化を中心に昔から村人達が常食としていたうどん作りを体験しました。おだんごもこねて野菜などと一緒におい供えました。

(なお、仲秋の名月は 19 日でした)



皆で楽しくうどん作り
(飯能民宿川波にて)

秩父二十三夜寺

～旧暦の月見：月待ち行事に参加～

秩父皆野の真言宗豊山派「二十三夜寺」は、江戸時代から月暦いわゆる旧暦で、9 月長月の「二十三夜待ちのお籠り」行事を続けてきた、沖縄などの南方の島を除けば大変稀有で貴重なお寺です。ひよんなことで月にこだわり「月と季節の暦」を毎年発行しているらっしゃる月の会(代表：志賀勝氏)の方々とお知り合いになり、もっと深く月の見かたや文化などのおはな



月の会：中村照夫氏提供
(望遠鏡でこのような月が見えました)

しをお聞きし、飯能の江戸時代の天文学者「千葉篤胤」が観測し、勉学に励んだ「天文岩」と岩窟なども訪ねてみました。

志賀勝氏プロフィール

1949 年東京生まれ。月の会代表。以前は民族問題の研究という固い勉強をなさっていらっしゃいました。シベリアで同行した月様に魅せられ開眼。三日月となって新しく生まれ変わるおつきさまは希望の象徴、お月様のように自分も変わろうと志したそうです。著書多数。

◇◇

二十三夜の月／谷崎信治

月暦九月長月の二十三夜の月は、真夜中過ぎに昇り始めました。秩父皆野の屏風状の山の稜線から、槍鉋の様な、強く鋭い輝きで、突き昇ってきました。その光は、まるで何かが山の頂きで誕生し、それに導かれる思いのするもので、心躍ります。



志賀氏と秩父二十三夜寺の住職

ぐるーぷ「倶楽志」 in 飯能の方々、〈月〉の会東京や深谷の仲間、そしてその名も「二十三夜寺」の檀家の方々、皆で待った月の出はまた格別で、忘れられない思い出になりました。

月の出までの長い夜を、飯野秀幸ご住職の法話や数珠作り、若い女性も含む檀家さんたちのご詠歌、「百寺音巡礼 仏教讃歌」を行っている原田薫さんのヴァイオリン演奏、景山えりかさんの「伊豆神津島の二十三夜待ち」のお話、それぞれ持ち寄りで、終始温かい雰囲気の中、ゆったり過ごせました。

そして数珠祈願の護摩焚きのお蔭で、身の穢れ

を祓い、静肅な気持ちで二十三夜の月を礼拝する事ができました。



数珠祈願の護摩焚き



秩父二十三夜寺にて

その前の昼間は、飯能白子の「民宿川波」さんの心尽くしの料理を愉しみ、志賀勝の「月待ちの今日性」の話、飯能虎秀出身で、江戸時代の天文暦学者「千葉歳胤」所縁の地をマイクロバスで訪ね、若いころ歳胤が天文を観測したと伝わる、十メートルもの巨石や、勉学に励んだという巨石の割れ目の岩窟も探訪できました。



天文学者千葉篤胤が研究した飯能虎秀の天文岩

千葉歳胤は、幕府天文方を助け、天文暦学の膨大な著書を残し、死後その遺徳から、「天文大先生」として、地元で祀られた人物と伝えられています。

翌日は、秩父三十四ヶ所観音霊場の内、一番札所の四萬部寺を始め、二七番札所の大淵寺、二六番札所の円融寺、三四番札所の水潜寺まで、江戸時代の秩父往還や巡礼道の名残を残す所も、歩くことができました。

何より飯能の方々との、気の置けない心温まる交流が、私には羨ましく、それを何より大事にしていきたいと、心新たにしました。

◇◇

飯能市エコツーリズムと共催
見て触れて癒されるたび
～南高麗滝の入タブの木を訪ねる～

かつて修験道の霊場であったとされる富士浅間神社。御神木である滝の入りタブの木に会いに行きました。そしてお昼は修験道者の携帯食であったとされるそば粉でそば打ちを一緒に体験しながら地元の方々の古き良き知恵やお話をお伺いいたしました。そして富士浅間神社の住職の武本宣比呂氏に伺いました。

皆さんは南高麗をご存知でしょうか。南高麗は飯能市の南部に位置し東西約 9 Km、南北約 4 Km の東西に細長い地域で、南側は東京都青梅市と境を接しているのどかな山間地です。



武本宣比呂氏

この南高麗の上直竹下分という地区に富士浅間神社が鎮座しております。現在は神社ですが明治の神仏分離令までは富士山富士坊東光院南仙寺という修験の寺が別当を務めていました。創建年月ははっきりしたことは分かりませんが、寛正四年(1463年)の銘のある鰐口がありますので、室町時代頃の創立ではないかといわれています。主祭神は木花開耶姫命を祀っています。また、社殿の並びには滝が落ちていますが現在は水量が減少してしまっているのが残念なところです。その側には通称

「龍神様」と呼ばれている「倶利伽羅不動」が祀られています。これも昔修験の寺であった名残ではないかと思われます。その他「おしゃもじ様」と呼ばれる祠がありますが、これは昔医薬の乏しい頃ここに供えてあるしゃもじを借りてきて、そのしゃもじで病人に飯を盛って食べさせると病が治る。また、体の悪いところを撫でさするとたちどころに病が治るといわれたそうです。借りたしゃもじは洗って新しいしゃもじを添えて返したそうでこのためいつも新しいしゃもじがたくさん供えてあったそうです。



富士浅間神社から裏山方面を望む

神社の裏山は、標高約 290m で麓から山道を歩いて 15 分程で頂上に到着します。途中嶮が嶽というところがあります。昔まだ女人禁制だった頃この禁を破って登ろうとした老女が石になってしまったという言い伝えがあります。そこに小さな石の祠がありますが、ここには浅間神社のご祭神である木花開耶姫命の姉神である磐長姫命が祀られています。そこから少し登ると頂上になり奥宮が鎮座しています。

頂上から登山道とは逆方向に少し下ると埼玉県天然記念物に指定されている「タブの木」が偉容を現します。「タブの木」は一名を「いぬぐす」と呼ばれるそうで、温暖地によく自生するそうです。樹齢は約 700 年といわれており、目通り 5.5m、根廻り 7m で成長はこの木の標準を大きく上回っているということです。台風や雪の被害等により枝や幹が折れたり空洞ができたりしていますが、まだまだ元気ですので是非会いにきてください。

(富士浅間神社住職 武本宣比呂)



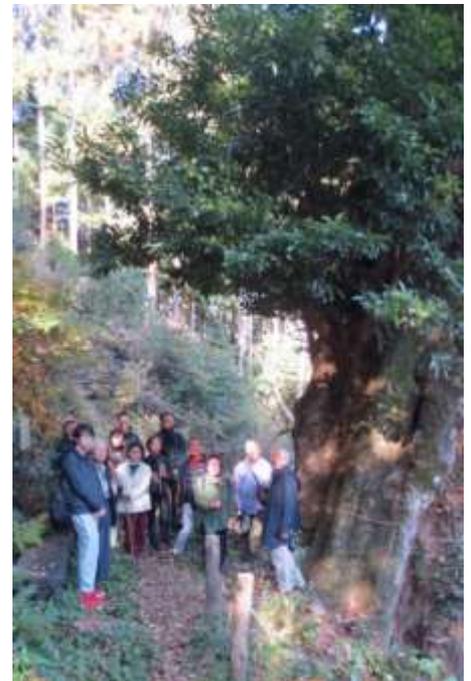
イベントに参加して

とても気持ちのよい朝でした。飯能駅北口のバス停からバスに揺られて 20 分ほどで、もう辺りは自然豊かな山里です。会場の自治会館にはもう、20 名ほどの参加者が集まっています。武本さんから、南高麗や神社のお話を伺い、さっそく神社の裏山に向かいました。

上り口にある「龍神様」と呼ばれている倶利伽羅不動を見学して、いよいよ山登り開始です。「ちょっと、自信ないわ」という女性の方も少しずつ山道にも慣れてきたようです。

自然を楽しみながら 20 分ほど坂道を登って頂上の奥宮に到着。「遠くまで、見えるぞ」そこからは遥か東に都心のビル群が眺められます。

奥宮から今度は少し下っていくと大きなタブの木が目の前に現れました。根回り 7m という大木の下で皆さん一息ついて、そして記念撮影を行いました。



タブの木の麓で記念撮影

昼前にお腹を空かせて自治会館に戻ると天婦羅を揚げるにおい。山を巡ってきて、誰ともなく「お腹が空いた」と。

いよいよ蕎麦打ちの体験です。講師は蕎麦打ちのベテラン、入間市の師岡さん(元サラリーマンで現在地域貢献をされている)です。すでに蕎麦打ちの台や蕎麦切り包丁、大きな捏ね鉢などが揃えられています。

参加者を 4 つの組に分けて、蕎麦打ちが始まりました。まずは師岡さんが水回しのやり方を実地で示し、参加者の皆さんが見様見真似で蕎麦を捏ねていきます。「あれ、先生のようにならない!」という声が掛かると、「ここはこんな風に・・・」などと師岡さんが手助けしてくれます。

皆さん、30 分ほど悪戦苦闘して、なんとか蕎麦を打つことができました。できた組から、茹でてもらいます。自治会館のテーブルには、お手伝いの地元の方のご協力で、もう薬味と天婦羅、蕎麦の漬け汁が用意されています。

茹で上がった蕎麦を皆で美味しく頂いたのはいうまでもありません。昼食後は、石灰焼き場史跡などをゆっくり散策。お腹も満足でとても気持ちのよい冬の日でした。(渡部直也)



師岡講師(中央)の指導で蕎麦打ち体験



寄稿:

田部井淳子さんのこと／堀越喜代子

山登りに魅力を感じて約六十年になるが、田部井淳子さんとの初めての出会いは 1987 (昭和 62 年) 三月である。主人が高校教諭だったので、春休みを利用することにして、S 旅行者に電話した。「とにかくヒマラヤに行きたいと思っているのですけれど簡単なトレッキングコースがありませんか?」「アンナプルナ、トレッキングは春全山シャクナゲが咲いていて最高ですよ。それに田部井淳子さんが同行してくれますよ。如何ですか?」私は即、飯能からは 4 人で参加しますと返事をした。田部井さんと一緒にヒマラヤの山を見ながらトレッキングが出来るなんて夢のようである。そして 10 日間の山旅は全山がシャクナゲでピンクに染まった中、アンナプルナⅢ峰(7555m)や、マチャプチャレ(当時ネパールでは神の山として登山禁止)、又、コラバニではダウラギリ(8167m)等を間近に眺めながらのトレッキングは我が人生、最初のそして最高のトレッキングだった。

田部井さんは雪崩で怪我をされ、退院直後、の足馴染りの同行だったので、ゆっくりした山旅で私達も山に堪能出来、大満足な山旅でした。それ以来、田部井淳子さんと国内、海外の山登り、その他いろいろな事で 30 年近いお付き合いは未だに続いている。田部井さんはエベレスト日本女子登山隊の副隊長として世界最高峰エベレスト(8848m)に女性として初の登頂に成功された。1975 年(昭和 50 年)5 月 15 日 12 時 30 分のことであった。その後も日本人男女合わせて初めて 7 大陸最高峰登頂という偉業をも成し遂げたにもかかわらず、国内はもとより世界的にも有名人だが気さくな人柄はちっとも変わらない。そんな田部井さんが大好きである。現在はもっぱら彼女のふるさと福島 of 被災者支援の協力をさせていただいている。(飯能市在住)



ホットラインニュース

2 月 1～3 日 With you さいたまフェスティバル

平成 25 年 2 月 1 日～3 日、埼玉県男女共同参画推進センターで第 11 回 With you さいたまフェスティバルが開催されました。



フェスティバルの展示模様



3 月 17 日 生涯学習フェスティバルに参加

平成 25 年 3 月 17 日、飯能市富士見公民館で開催されました。今回は、飯能出身の偉人、平沼専蔵についてパネル展示を行いました。鯉沼教育長他多くの方々が来場されました。



2014年の活動予定

◇2月7日(金)～9日(日) 第12回 With you さいたまフェスティバル

今年も実行委員となって、フェスティバルに参加します。我々の活動報告の展示・広報誌などを紹介します。今年の講演会は女性として初めて世界最高峰のエベレストに登頂したスーパーウーマンの「田部井淳子氏」(登山家:写真)をお迎えいたします。そしてわが会でも偶然田部井さんと登山を何度か一緒に、公私ともに交流されていらっしゃる方がいらしてこれを機会に思い出など寄稿していただきましたので、合わせてご覧ください。(前頁に掲載)



田部井淳子氏

◇3月2日 飯能市生涯学習フェスティバル

今年も飯能市生涯学習フェスティバルに参加します。

日時：3月2日(日) 10:00～

場所：飯能市富士見公民館

会の活動報告展示や舞台発表外では模擬店など用意いたしております。たくさんの方々の参加をお待ちいたしております。

◇4月5日 親睦会(総会)の予定

今回は皆様とお風呂でも入りながら、ゆっくりとざくばらんに貴重な時間を過ごしたいなと思います。

日時：4月5日(土) 9:30 飯能駅南口集合
(ゆうパーク越生のバスが迎えに来ます)

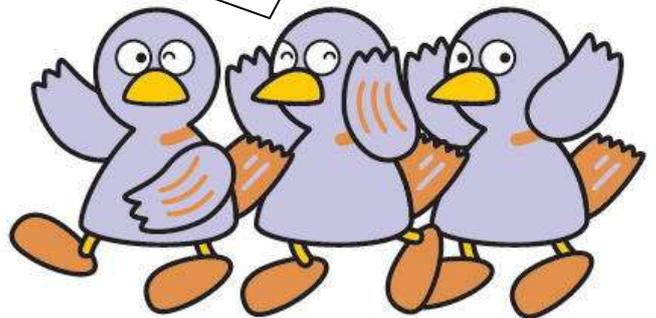
場所：ゆうパーク越生

(入浴、交流会、カラオケなど予定)

途中飯能の顔振り峠から越生に向かう途中で自刃した渋沢平九郎の(越生)自刃地と近くの平九郎が葬られている全洞院(龍穩寺末寺)に寄っていきたいと思います。詳細は別紙でお知らせいたします。



ぐるーぷ倶楽志の活動って面白いね。
私達も参加しよ〜っと。



埼玉県のマスコット「コバトン」

【スタッフ】高野伊九子、平沼武子、
堀越喜代子(飯能)

【会報編集】渡部直也(入間)



・ ・ あなたも、ぐるーぷ倶楽志 in 飯能に参加しませんか ・ ・

地域文化を大切にして、広く伝え、育むことを目指す「ぐるーぷ倶楽志」

飯能市地域は古い歴史と自然に恵まれており、特色ある文化を育んできました。

特に、住む、着る、食べる、の衣食住は欠くことのできない大切な文化です。

私たちは、地域文化を、**俱に、楽しむ、同志**として多彩な文化交流を目指します。

そして、地域文化を学習すると共に、これを発信する場として交流を深めます。

※ 連絡は、相田(スギタ) <電話 042-974-3538 携帯 080-3456-2623>まで 入会金 1,000 円